第３学年３組　国語学習指導案

第４校時　場所　３年３組教室　授業者　木下　忠志

１　単元名　人物の性格を捉え、『みんなで語る豆太語り』をしよう（「モチモチの木」光村図書３年下）

これまでに子どもたちは、物語教材を学習する中で無自覚に登場人物の性格を表す言葉を表出している。しかし、それらは「好奇心旺盛」「おっとり」など、その人物の一面を表現した言葉でしかなく、場面の移り変わりと結び付けながらより具体的に想像することは難しい。

このような子どもたちに、本単元では「モチモチの木」に出合わせる。本作品は、豆太の行動や会話、人物たちの言葉に着目することで豆太の性格を豊かに想像することができる。そのため、豆太自身や他の人物に同化したり、読み手として異化したりしながら豆太の性格について複数の場面を結び付けながら具体的に想像する力を身に付け、登場人物を多面的に捉えながら物語を読み味わい、文学のおもしろさを実感することを願う。

そこで、本実践では『みんなで語る豆太語り』という言語活動を設定する。本作品は斎藤隆介による「創作民話」であり、語り手によって展開されている。語り手によって語られる豆太の性格や、じさまや豆太自身が豆太について語る言葉もあり、それぞれの人物に同化しながら物語を読むことで、登場人物の性格についての見方を広げることができる。そして、叙述を基にして登場人物の性格を多面的に捉え、他の人物から見た豆太の性格を結び付けたりしながら考えることで、登場人物の性格を豊かに想像することができるようにする。

２　単元について

⑴「モチモチの木」を学習材とし、登場人物の境遇や状況を捉え、場面の移り変わりと結び付けたり、登場人物の行動や会話、他の登場人物の言葉を手がかりとしたりして、豆太の性格を具体的に想像する力の育成をねらう。

そこで、本実践では『みんなで語る豆太語り』という言語活動を設定する。本教材は「語り手」によって物語が展開されている。語り手によって登場人物の心情が代弁されることもあれば、それぞれの登場人物が豆太について語る叙述もある。そのため、それらの叙述を基に、それぞれの登場人物の立場になって豆太を語ることを通して、それぞれの登場人物の豆太に対する見方を結び付けることで、登場人物の性格を多面的に捉えることができる。その上で、読者として豆太の「やさしさ」や「勇気」について、より具体的に想像することができると考える。そこで、実践にあたっては、以下の２点に留意する。

○　言語活動『みんなで語る豆太語り』に取り組み、「語り手」「じさま」「豆太」「読者」の立場から豆太について語ったり（なる読み）、それぞれの語りを見合ったりすること（みる読み）で、豆太の性格を多面的に捉えることができるようにする。

○　それぞれの立場で豆太の性格について語り合うことで、場面の状況や人物の行動、登場人物の言葉などを結び付け、性格を具体的に想像することができるようにする。

⑵　子どもたちはこれまで、同化や異化を繰り返しながら言語活動に取り組むことで、登場人物の気持ちやその変化を想像する学習に取り組んでいる。そこで身に付けた力を生かし、本単元では人物の性格を具体的に想像する力を身に付けていく。この学習が４年生での精査・解釈における物語の読みの深まりや人物像を具体的に想像する５年生以降の学習につながっていく。

⑶　本単元に関する子どもの実態は、次の通りである。（調査人数：３５人）

①　子どもたちの多くは物語を読む中で、登場人物の性格を表す言葉を表出している。

②　登場人物の性格を多面的に捉えている子どもは数名程度いる。

３　単元の目標

⑴　様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、語彙を豊かにできる。

⑵　人物の気持ちの変化や性格について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像できる。

⑶　登場人物の性格について場面の移り変わりと結び付けて粘り強く想像し、感じたことや考えたことを言語活動のつくりかえに生かそうとしている。

４　指導計画　（１２時間取り扱い）

時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
1	1　学習の見通しをもつ。	○　既習教材を想起し、登場人物の性格に着目させた上で「モチモチの木」と出合わせることで、豆太の性格について関心をもつことができるようにする。 ○　性格を想像するための手がかりを考え、登場人物たちの豆太について語る叙述に気付かせることで、言語活動を設定し、活動への見通しをもつことができるようにする。	【知】登場人物の性格を表す言葉や叙述に着目している。（発言）
2 ～ １０	2『豆太語り』に取り組む。 ⑴ 豆太の行動や会話、他の登場人物の言葉に着目して、豆太の性格について話し合う。 ⑵ 豆太の性格の変容について考え『豆太語り』をつくりかえる。	○『豆太語り』に取り組むことを通して、登場人物の行動や会話に着目している考えを取り上げることで、場面の様子やその時の気持ちから性格を想像することができるようにする。 ○　それぞれの登場人物の立場になって豆太について語ることで、それぞれの登場人物の豆太に対する見方や思いを、叙述を基に想像できるようにする。 ○　物語の山場から最後の場面にかけての豆太を「読者」の立場からどのように語るかを考えることで、場面の様子や登場人物の行動、豆太について語る言葉を結び付け、性格を具体的に想像することができる。（本時７／１２）	【知】登場人物の会話や行動、様子を表す叙述に着目して、様子や行動、気持ちや性格を表す語彙を豊かにしている。（記述） 【思】登場人物の性格について、場面の移り変わりと結び付けて、具体的に想像している。（発言・記述） 【主】登場人物の性格について粘り強く想像し、言語活動の再考に生かしている。（観察・振り返り）
１１ ～ １２	3　それぞれの『豆太語り』を読み合い、感想を伝え合う。	○『豆太語り』を読み比べることで、登場人物の性格への想像を広げ、一人一人の感じ方の違いに着目し、自分の考えを広げたり深めたりできるようにする。 ○　単元を振り返ることで、身に付けた力を自覚し、今後の学習に生かそうという思いをもつことができるようにする。	【主】進んで一人一人の感じ方の違いに着目し、自分の考えを広げたり深めたりしようとしている。（発言・振り返り）

５　本時の学習

⑴　目標

山場から最後の場面にかけての豆太をそれぞれの登場人物の立場から語る活動を通して、それぞれの人物の豆太に対する見方を結び付けながら性格を具体的に想像することができる。

⑵　展開

時間	学習活動	子どもの思い・姿
7	1　前時までの学習を振り返り、本時の見通しをもつ。	○　僕は、じさまや語り手の立場になって、それぞれの豆太語りができてきたよ。 ○　私は豆太になった時、臆病だと語ったよ。だって、一人で小便にも行けないし、臆病だと言っているからね。 ○　じさまは臆病だなんて思うなって語っていたよね。 ○　確かに。それを聞いて豆太はどう思ったんだろうね。
１３	2　それぞれの登場人物の立場から、豆太の性格について語り合う。	○　私は、豆太とじさまで語り合ってみようかな。じさまの言葉を聞いた豆太がどう答えるのかが分かると読者の語りに生かせると思うな。 ○　ぼくは豆太になって考えてみようかな。山場の時のことを豆太がどう語るかが分かると豆太自身の豆太の見方が分かるかもしれないな。 ○　私はじさまになって語ってみたいな。同じ場面でも、じさまはその時のことをどう思っているのかな。 ○　あの時、豆太は迷わず飛び出していたから自分でも勇気があったと思っていたんじゃないかな。 ○　わたしは、豆太はじさま思いのやさしい性格なのかなって思ったよ。じさまもそう語っていたよね。 ○　じさまは「臆病だなんて思うな」って言っていたから、豆太は元々勇気があったと思っていたんじゃないかな。 ○「弱虫でも優しけりゃ」って言っていたけど、それってどういうことなのかな。
２０	3　それぞれの立場から豆太について語り合い、自分の豆太語りを見直す。	○　それは題名だから、もしかして語り手さんの言葉だったんじゃないのかな。 ○　じさまは「一人で夜の道を走って、医者様を呼びに行けたんだから、弱虫だなんて思うな」と言うと思います。 ○　僕はじさまの勇気のある子どもという言葉がその豆太の行動を指していると思いました。だから、豆太のもつ優しさや勇気は、実は同じなんだと思います。 ○　私は、語り手も実は豆太が好きなんじゃないかと思いました。「弱虫でも、やさしけりゃ」って小見出しには、豆太の優しさを伝えたいって思いがあるんだと思います。
5	4　本時を振り返る。	○　ぼくは、豆太の優しさについての意見を聞いて、じさまを大切に思っていたから行動できたと思いました。そのことを語りに入れたいと思います。

これまで、それぞれの人物や読者の立場になって豆太について語ってきた子どもたち。本時ではこれまでの自分の「語り」を基に、山場から最後の場面を含めて、それぞれの人物の立場から豆太について語り合うことで、他の人物の言葉を結び付けながら、性格を具体的に想像し、豆太語りをつくりかえていきます。

主体的・対話的で深い学びを生み出す教師の支援（発問・指示・教具・評価）

○　前時までの学習で豆太自身の語りで臆病と考えている子どもの語りを取り上げ、「じさま」の立場から豆太について語らせることで、最後の場面のじさまの言葉への着目を促すようにする。

○　最後のじさまの言葉を踏まえると、豆太の性格について、それぞれの登場人物の立場からどのように語るとよいかを再考する視点を整理し、課題を設定する。

山場から最後の場面を含めると、それぞれの立場から豆太の性格をどう語るとよいだろうか

○「豆太」「じさま」それぞれの立場から豆太について語り合ったり、同じ人物を選択している子ども同士で語りを見合ったりする場を設定することで、それぞれの立場で最後のじさまの言葉を含めた豆太語りを行うことができるようにする。

○　豆太を臆病だと語っている子どもには、山場の場面の豆太の行動やその時の心情を何と語るかを問うことで、夢中で飛び出していった豆太にとって、じさまがどれだけ大切な存在かを気付くことができるようにする。また、もし自分が豆太の立場になったらと問うことで、じさまへの思いの強さを想像できるようにする。

【教材・教具】
○　ワークシート
○　教材文シート
○　掲示用拡大本文
○　語り手帳

○　じさまの豆太に対する言葉に着目して考えているグループには、じさまの言う「優しさ」や「やらなきゃならねえこと」が豆太のどの行動と結び付いているのかを、叙述を基に考えさせることで、じさまが豆太の優しさや勇気をどのように捉えているのかを具体的に想像することができるようにする。

○　豆太を臆病と語っている子どもの語りを再度全体で取り上げ、じさまの立場から「豆太についてどう語るか」を問うことで、じさまや語り手から見た豆太について語り、それぞれの見方を結び付けることができるようにする。それにより、性格を表す言葉が同じ場面や行動を指していることに気付くことができるようにする。

○　山場の場面での豆太の行動を「仕方なく」「じさまを助けた方がいい」という表現をしている考えを取り上げ、その時の豆太の行動や思いを表す言葉として妥当かどうかを検討することができるようにする。

○　語り手の立場で「豆太はやさしさと勇気が混じっている」という考えを語っている子供がいた場合には全体で取り上げ、最初と最後の小見出しを比較させることで、豆太の優しさや勇気について具体的に捉えることができるようにする。また、小見出しに着目することで、豆太の優しさを強調する構成の工夫について気付くことができるようにする。

○　豆太やじさまの言葉を基にして、「豆太語りシート」のなかで見直せそうな言葉に線を引いたり、実際に語りの内容を書き換えたりして言語活動をつくりかえる見通しをもつことができるようにする。

【評価】
人物の行動や会話、他の人物の豆太に対する見方を結び付け、人物の性格を具体的に想像することができる。（観察・記述）